

キラリ中野 まちの魅力と新しい活力

中野駅周辺まちづくりグランドデザイン Ver.1.0

- 1 グランドデザインとは
- 2 中野駅周辺の現状
- 3 まちづくりの目標
- 4 将来のまちの全体イメージ
- 5 回遊性の高いまちをめざして
- 6 導入機能と活動展開イメージ
- 7 グランドデザイン実現のためのツール
- 8 成長し、惹きつけ、憩えるまちへ
- 9 グランドデザイン実現のスケジュール



グランドデザインとは

- 中野駅周辺まちづくり計画がめざす「まちの将来像」について、産業のあり方を含めて明らかにしたもの
- この将来像の実現を図るため、導入すべき諸機能やその実現方策を示したもの
- 社会・経済情勢の変化等に合わせ、その内容を適宜見直し、より望ましい姿へと進化させていくもの

1

グランドデザインの策定目的

中野駅周辺は、区を中心に位置し、区内随一の交通結節点として、中野の顔となるべき地区に位置付けられています。この実現に向けて、平成17年（2005年）5月、「中野駅周辺まちづくり計画」を策定し、まちづくりの基本方針ならびに地区別に導入すべき都市機能など主として都市整備の視点から明らかにしました。

本グランドデザインは、同計画の基本的な考え方に基づき、さらにまちの活力やにぎわいに主眼を置きながら、中野駅周辺に導入すべき産業と活動展開の姿を描き、合わせてそれらの導入方策をしめすことにより、中野駅周辺地区が真の中野の顔として拠点性のある機能集積をつくり出すことを目的とするものです。

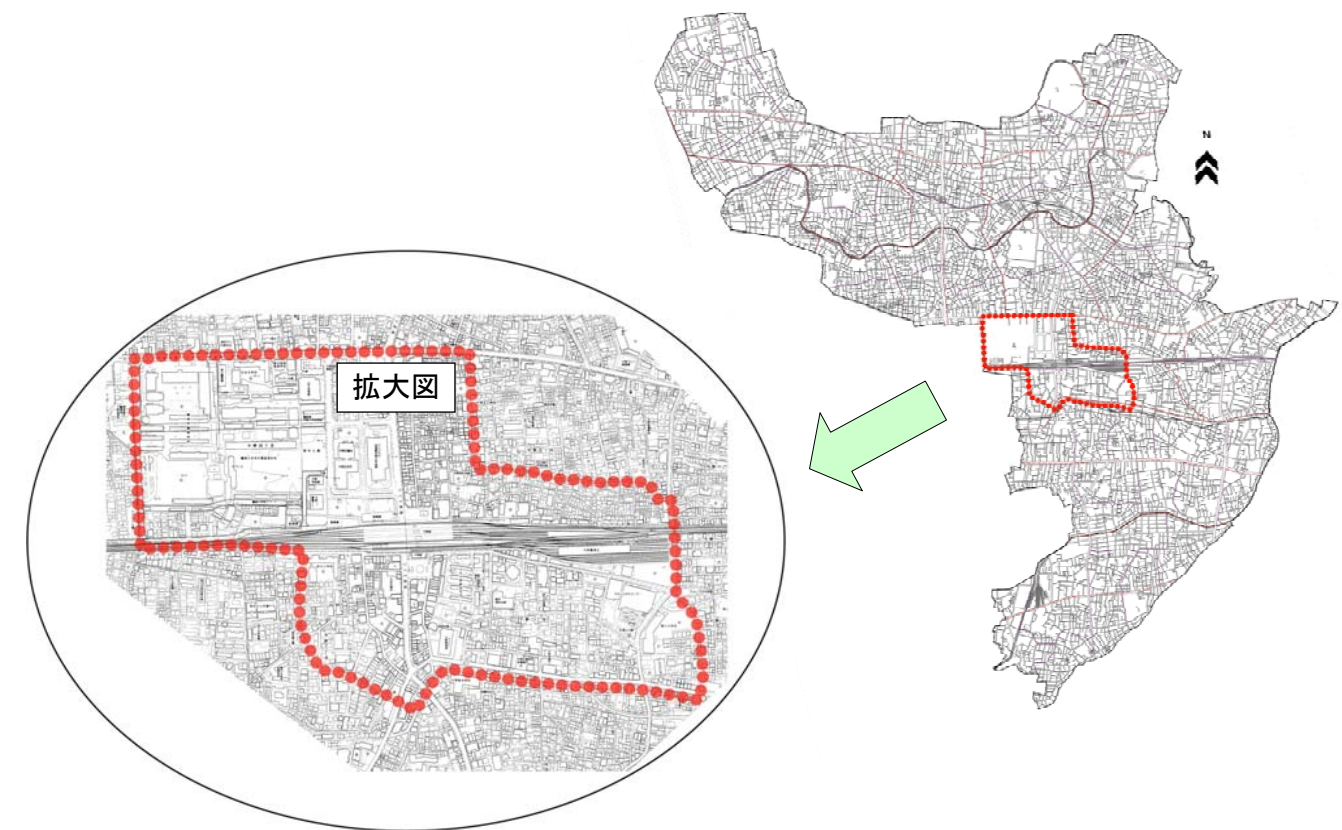
2

グランドデザインの基本的視点

- 警察大学校等跡地の開発を契機として、中野四丁目全域や中野五丁目へ、さらには中野駅南口へと連鎖的に新たなにぎわいを創出していくことで、中野区全域の経済活動に波及効果をおよぼし、活性化していく好循環へと誘導することをめざす「連鎖型のまちづくり」を推進します。
- このまちに住み、働き、学び、憩い、このまちを楽しみ遊ぶための場や機会がさまざまに提供され、滞留時間の長いまちを実現するための「まちの回遊性」の確保・向上を図ります。
- 民間企業のまちづくりノウハウや資金調達などの能力と経験を活用し、さらに地元権利者、区内事業者参加型のまちづくり手法を導入することによって各地区の開発事業を立ち上げ、実現する「民間の力を活用したまちづくり」を实践します。

3

グランドデザインの策定範囲



本グランドデザインの策定範囲は、中野駅を中心に、北は早稲田通り、南は大久保通り、西は杉並区境、東はもみじ山通りに囲まれた区域のうちの、都市計画マスタープランでにぎわいの心に位置付けられるエリア及びその周辺を含む約80ヘクタールを対象としています。

◇ 中野駅周辺の強みと課題

《強み》

- ◇文化、行政、業務、商業など各種の機能が集中
- ◇区の中核であるとともに、区全体をサービス圏域とする民間並びに行政の拠点
- ◇新宿及び都心に直結し、区内外に通じる鉄道・道路、バス路線などが集中する交通結節点
- ◇後背圏に八王子・多摩を擁し、東京圏にとって固有な特色を持つ拠点
- ◇区部中心部に近接する交通至便なまちとして市街化が進展

《課題》

- ◆商業・業務系のスペースが不足しておりこれら各種機能の集積が不十分
- ◆駅施設、駅前広場及び道路等の交通インフラが不十分
- ◆都市基盤施設の整備が不十分なまま市街化が進行し、まちの防災性が脆弱

◇ 中野区の特徴

◇人口及び人口動態

- ・人口は2005年から微増傾向
- ・若者世代（20歳代・30歳代）のシェアが高い
- ・進学期・就職期（10歳代後半から20歳代前半）の若者の転入が際立つ
- ・結婚期及び子育て期（30歳代前半から40歳代前半）の転出超過が目立つ
- ・区内の居住年数は短く、5年間居住する人は約6割

◇従業者動向

- ・2000年頃まで微増、それ以降微減
- ・2000年代からはサービス業も減少したが、印刷等の製造業、小売・飲食業は微減
- ・サービス業の減少には、医療福祉と教育・学習支援業の減少が影響

◇ 中野駅周辺の特徴

◇駅乗降客数

- ・鉄道乗降客約20万人、バス利用者約5万人、年々減少傾向にある
- ・鉄道乗降客は、御徒町駅、日暮里駅、大井町駅とほぼ同じ

◇人口密度と従業者数

- ・夜間人口の密度は高いが、昼間人口は低い
- ・従業者約3万人弱で、他の駅に比べ従業者の密度が低い

◇商業構成

- ・商業は、飲食店で約600店・4,000人、小売業で約550店・4,000人
- ・他の主要駅と比較すると、上野駅周辺と大井町駅周辺の中間に位置

◇卸売業と小売業の販売額

- ・卸売業の従業者1人当り販売額は新宿駅周辺や渋谷駅周辺を上回る
- ・小売業の従業者1人当り販売額、及び売場面積当り販売額は小さい

◇商業集積地区の販売額等

- ・北口周辺の売場効率と従業者1人当り販売額は高く、新宿駅西口地下街とほぼ同等

まちづくりを取り巻く社会経済状況

- 東京圏においても人口減少、少子高齢化が進展
- 都市の市街地構造は、外延的拡大からコンパクト化に転換
- 高い経済成長が望めない中、都市間の競争が激化
- 多様な選択肢の中から、自分に合った生き方、楽しみを選択する指向性の強まり
- 安全・安心に暮らすことに対する希求の高まり
- まちづくりに民間のノウハウや活力が求められている

まちづくりの基本目標

- 中野の地域経済やまちの活性化の起爆剤
- まちの個性の発揮と求心力、集客力の向上
- 働き・楽しみ・住みたくなるまちの実現
- 防災性能が高く環境と調和するまちの実現

まちづくりの基本目標

基本目標1 中野の地域経済やまちの活性化の起爆剤

- 駅周辺に多様な機能の集積した、創造的で刺激に富むエリアを形成し、周辺地区を連鎖的に再生させ、魅力と活力ある中野を実現
- 魅力的で競争力のあるビジネス拠点を形成し、地域経済の活性化、域内経済循環や域外取引を活発化

基本目標2 まちの個性の発揮と求心力、集客力の向上

- 中野の「顔」であり交通結節点である中野駅周辺に、人々が楽しく暮らし、働き、学ぶ機能を誘導し、既存の文化・商業機能等との連携により、にぎわいと個性のあるまちの拠点を実現

基本目標3 働き・楽しみ・住みたくなるまちの実現

- 働く場や楽しむ場が充実し、豊かな暮らしが保障されることにより、住んでみたくなるまちを実現

基本目標4 防災性能が高く環境と調和するまちの実現

- 防災公園や十分なオープンスペースの整備や豊かな緑の確保を図ることにより、安全・安心で、環境と調和したまちを実現



めざすまちのコンセプト

◆多様な機能がつながり、個性を発揮するにぎわいの心

- 中央線沿線の文化・歴史を生かしながら、多くの来街者が集い、交流し、にぎわいの高まるまち
- 文化や公共公益サービス機能、活気ある商業・業務機能とがつながり、相互にその個性と機能を発揮するまち
- 産学や大学間が連携し、新たな産業創出や産業振興による、活力のあるまち

◆新たな交流が生まれ創造性のふくらむまち

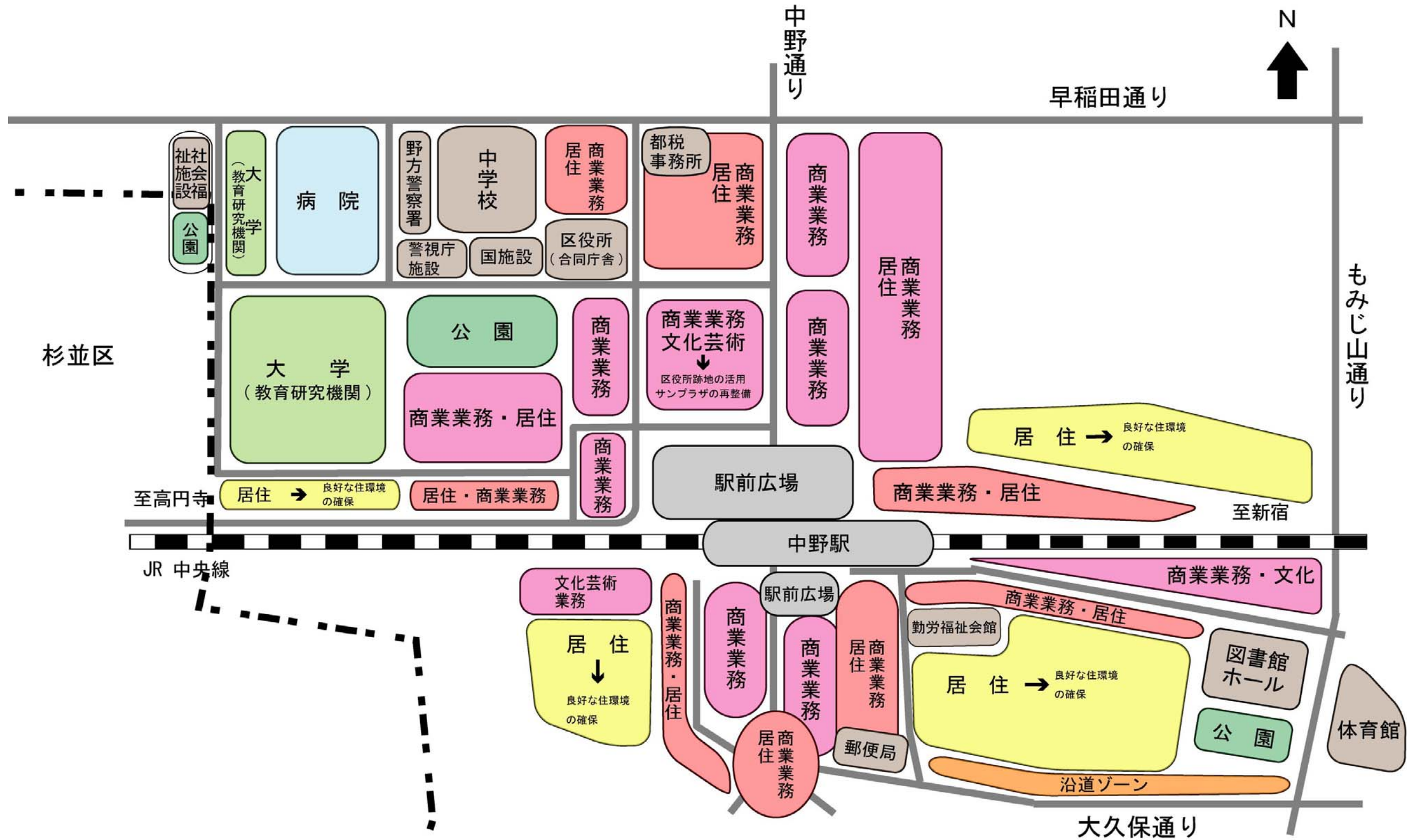
- ソフトなものづくりやヒューマンサービスを中心とした都市型産業の集積により、新たな産業が創造されるまち
- 新たな教育文化圏を形成し、駅周辺からの文化の発信や地域での生涯学習の充実したまち
- 都市の魅力を楽しむことができるアミューズメント施設の導入や多様な活動の場が確保されたまち
- 民間の活力や創意工夫を生かしたまち

◆産業創造と人々の活力がみなぎるまち

- 区民が生涯にわたって暮らし続け、企業が発展段階に応じて継続的に事業展開できるまち
- 徒歩で回遊でき、出会いや交流を通じて創造的に刺激し合えるまち
- 個人や企業が相互に顔の見える付き合いの中で、まちに埋没することなく生活できるまち

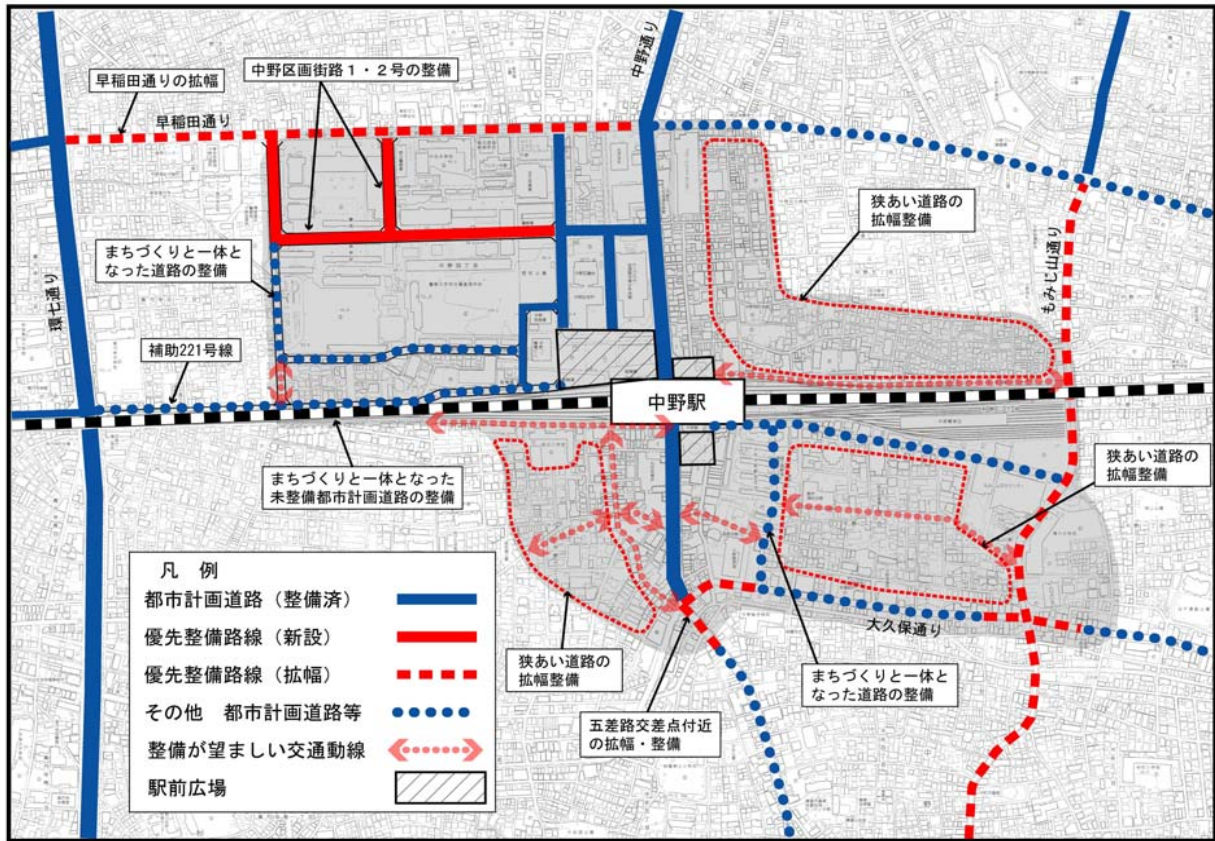
◆安全で人に優しく地球に優しいまち

- みどり豊かな公園やオープンスペースの確保、良好な都市景観が形成された、環境と調和したまち
- 十分なオープンスペースを確保した、災害時にも安全なまち
- 省エネ、省資源、自然エネルギー活用等やユニバーサルデザイン等による、人や地球に優しいまち

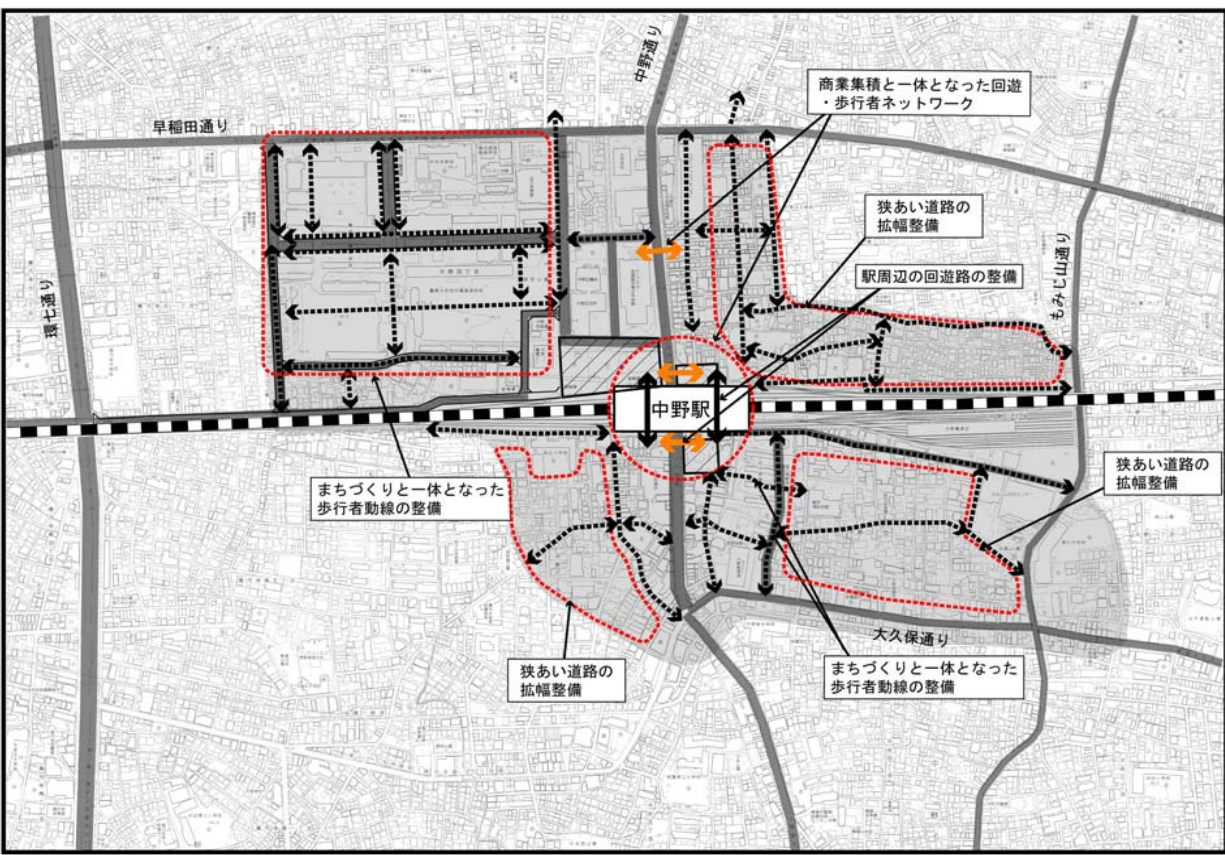


この図は、中野駅周辺における概ね20年後のまちの姿をイメージしています。

1 道路整備



2 歩行者動線



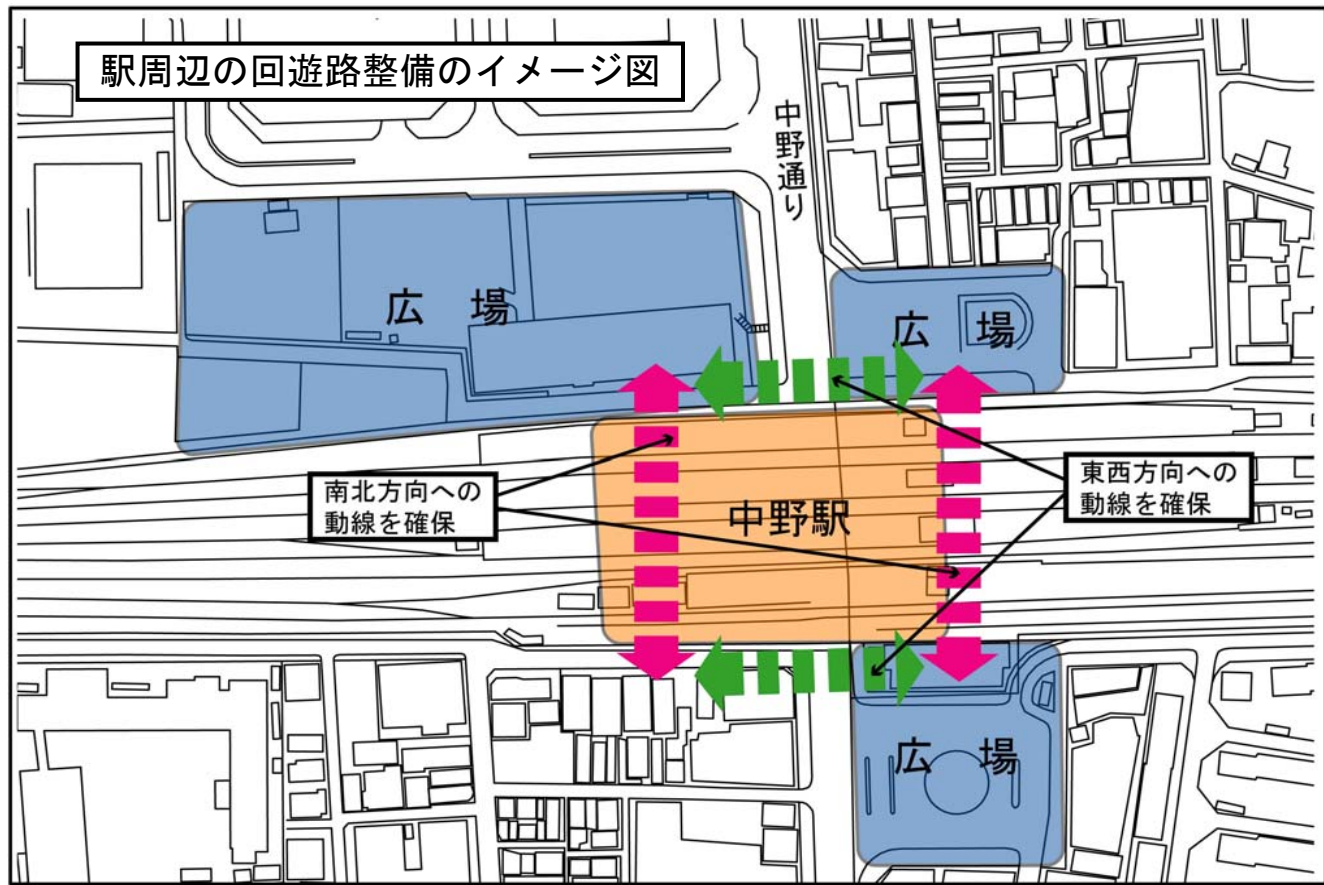
<車の流れにも配慮した道路整備>

- ◆ 警察大学校等跡地では、まちづくりと一体的に整備を進める都市計画道路中野区画街路1号・2号の新設整備を行うほか、跡地内の西側・南側に区画道路（幅員12m）の新設整備を進めます。また、跡地の北側に位置する都市計画道路補助71号（早稲田通り）や南側の区域にある都市計画道路補助221号の拡幅整備について、まちづくりと一体的に整備することをめざします。
- ◆ 中野二丁目では、現在、機運が高まりつつある市街地再開発事業と合わせ、千光前通りから大久保通りまでの南北道路（幅員12m程度）の新設整備をめざします。さらに、都市計画道路であるもみじ山通り（幅員16m）についても拡幅整備を進めます。
- ◆ 上記以外に、地区全域で狭あい道路についても着実に拡幅整備を進めるほか、地区内外への新たな交通動線となる主要生活道路等の整備をめざします。

<ゆとりある歩行者空間の整備>

- ◆ 警察大学校等跡地では、まちづくりに合わせて歩行者通路の新設整備を行うほか、敷地の道路に面する側には、壁面の位置の制限を定め、歩道と一体的になった良好な歩行者空間を創出します。
- ◆ 中野二丁目市街地再開発事業と合わせて整備をめざす南北道路については、歩道部に良好な歩行者空間の創出を図るほか「もみじ山文化の森」方向へ安心して歩ける道の整備を進め、さらに、もみじ山通りの拡幅整備によって、ゆとりある歩行者空間を創出します。
- ◆ 上記以外に、狭あい道路の拡幅整備を進め、地区内に新たな主要生活道路等の整備をめざすとともに、民間活力による安全でおいしい歩行者空間の確保や個性的でアメニティの高い歩行者空間の整備を図ることにより、中野駅周辺における歩行者の回遊性を高めます。

3 中野駅及び駅前広場の将来像



〈中野駅及び駅前広場の整備の目標〉

現在、中野駅周辺はJR中央線と中野通りによって東西南北に大きく分断されており、まちの発展の阻害要因になっています。さらに、中野駅及び駅前広場については現状でも飽和状態となっており、今後、中野駅周辺まちづくりの進捗によって、さらに大幅な処理能力の不足が生ずることが予想されます。このため、中野駅及び駅前広場の改善を行い、公共交通機関の利便性や歩行者の東西・南北方向の回遊性の確保を目指すとともに、まちの集客力に寄与する中野の顔としての魅力ある駅及びその周辺空間の整備をユニバーサルデザインにも十分配慮して進めます。

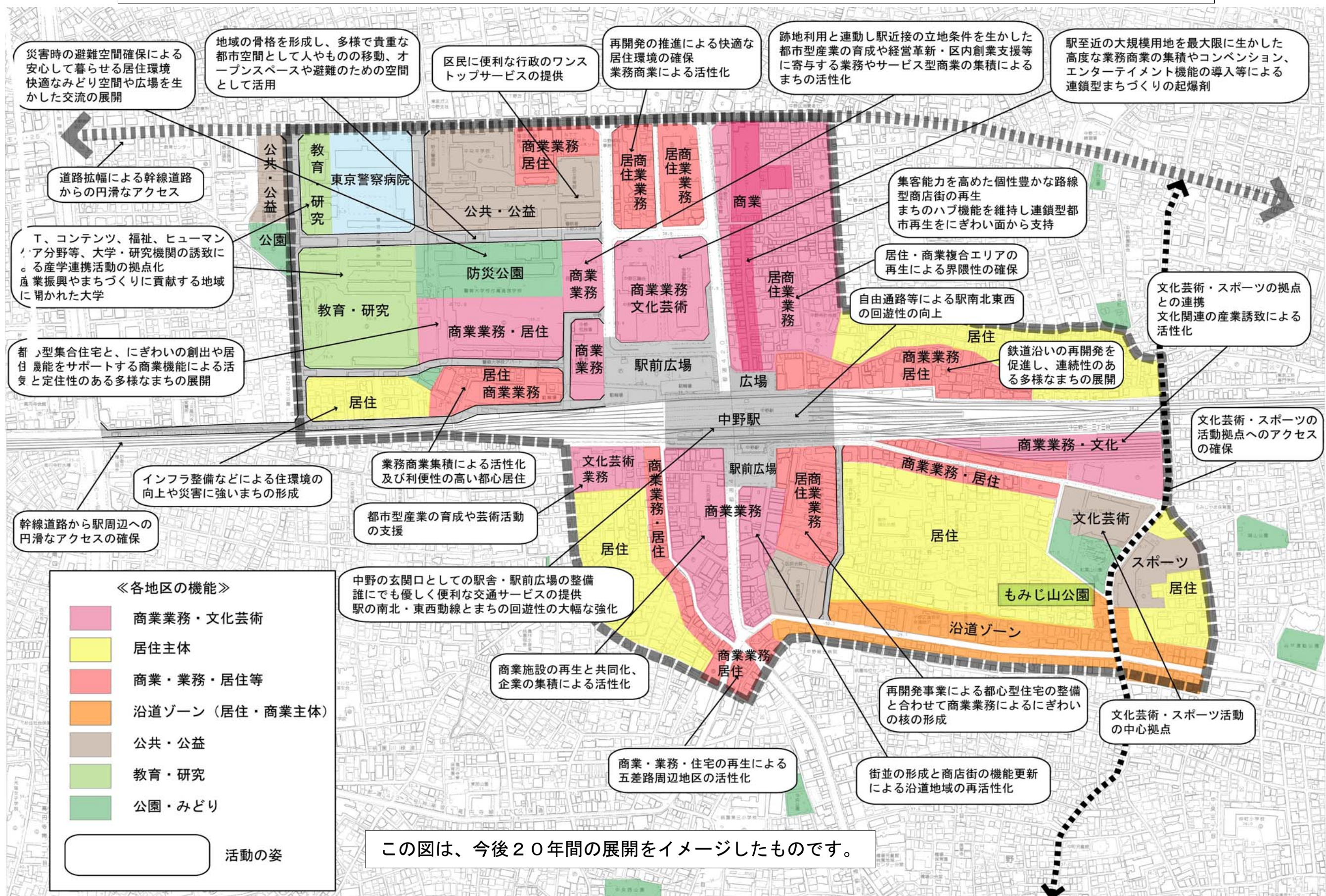
また本エリアについては、もみじ山文化の森から平和の森公園へ連なるみどりのネットワークの中継点としても整備を進め、警大跡地、中野通り等との連続によって、新井薬師、哲学堂公園等とのネットワークの形成を図っていきます。

〈中野駅及び駅前広場に求められる機能〉

駅舎の建替えにあわせて、駅の東西・南北を結ぶ新たな歩行者ネットワーク動線の確保や、立体的な駅前広場を整備することによって、公共交通や駐車、駐輪などの交通基盤施設を確保し、みどり豊かな空間を形成していきます。

- ◆ **中野駅駅舎**
 - ・中野駅周辺まちづくりの進捗と合わせ再整備
 - ・中野の顔としてのシンボル性や風格を備えた駅舎
 - ・すべての利用者に優しく便利な公共サービスの提供
- ◆ **自由通路等**
 - ・駅と一体化した東西南北方向への自由通路等を整備
 - ・中野駅周辺の歩行者動線のハブ機能を形成
- ◆ **北口駅前広場（サンモール前）**
 - ・駅構内から連続した歩行者優先の広場
 - ・既存商店街との連続性の確保
 - ・景観に配慮した、潤いのある空間
- ◆ **北口駅前広場（区役所・サンプラザ前）**
 - ・既存の北口駅前広場のバス乗降場を、新たな駅前広場に集約
 - ・サンプラザ横や中央線ガード下、南口駅前広場のバス乗降場についても集約
 - ・バス動線と分離した安全な歩行者動線の確保
 - ・景観に配慮した、潤いのある空間
- ◆ **南口駅前広場**
 - ・駅舎や中野二丁目地区などの周辺整備にあわせた再整備
 - ・バス乗降場、歩行者空間とタクシープールなどをより機能的に再配置
 - ・景観に配慮した、潤いのある空間
- ◆ **駐車場・自転車駐車場**
 - ・駐車場・自転車駐車場を適切に配置

導入機能と活動展開イメージ

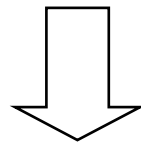


	項目	方 策	内 容
ソフト	産業の誘導	IT・コンテンツ産業等の誘導	・クロスメディアを総合的にプロデュースする業務など今後の成長が見込まれる業種・業態の事業所の誘導 ・コンテンツプロデューサーの育成、撮影・制作スタジオの確保
		シティセールスによる誘導	・中野の市場性、交通利便性、コストパフォーマンスの高さなどのシティセールス
		産業環境の整備・誘導	・良質なオフィスの提供 ・キャリア形成教育機関・情報関連教育機関等との連携による知的マネジメント支援、人材育成
	産学の連携	大学等の教育・研究機関の誘導	・中野の企業と連携可能な大学などの誘導
		産業と大学の連携	・共同研究・技術移転の推進、知的財産の保護・活用 ・大学内へのインキュベーションセンターの整備 ・人材育成・確保支援での連携
		ヒューマンサービス機能の拡大	・病院・大学・企業の連携による福祉関係サービスの展開支援
	まちのにぎわい	人を集める施設整備	・劇場、イベントホール、ホテル、テーマ型商業施設などの導入
		にぎわいの「タネ」を育てる	・地域資源の活用、地域文化の発見、創出を産業の活性化につなげる自由な空間の創出
		既存産業・商店街等との連携	・事業者間のマッチングの機会の創出 ・既存商店街と連携した新たな回遊ルートの創設
		中野サンプラザの再整備	・中野サンプラザ地区のまちづくり整備方針→再整備の基本構想→再整備の実施計画→全国的な知名度（全国ブランド）機能の確保
中心市街地の活性化	中心市街地活性化法の活用	・市街地整備に関わる事業化計画の作成 ・民間主体が参画する市街地活性化協議会の設置	
まちづくりの推進及びまちの管理・運営	まちづくり協議会の設置	・賑わいと活力にあふれたまちの実現に向け、地権者等による協議の場の設置 ・ガイドラインの具体化、開発計画やスケジュール等の調整、まちの管理運営等について協議	
	まちづくり法人・会社の設立	・賑わいのあるまちを維持・発展させるため、まちの管理運営を行なう法人等の設置 ・まちの管理や警備・防犯活動、イベントの開催、収益事業等を実施	
民間の活力の活用	民間からまちづくりの提案	・民間との事業企画勉強会の開催 ・まちづくり会議(仮称)の開催	
	開発者負担	・開発者負担制度の導入 ・都市基盤施設整備等に向けた開発協力金の活用	
協働で進めるまちづくり	再開発等促進区を定める地区計画	・都市基盤整備と良好な建築物の一体的整備に関する計画に基づく、土地の合理的利用と都市機能の増進 ・公共貢献（地区施設、公共空地等の整備）に見合った土地の高度利用や土地利用の転換	
	都市計画事業（都市計画道路・公園）	・区が主要な都市基盤施設の整備を行い、開発者から応分の負担を徴収	
	市街地再開発事業	・市街地の土地の合理的かつ健全な高度利用と都市機能の更新を図るため、建築物及び建築敷地の整備と合わせ公共施設を整備	
	街並み誘導型地区計画	・壁面の位置の制限による歩行者空間の確保と良好な街並みの形成	
	街区再編まちづくり制度	・細分化された敷地の統合や細街路の付け替えや共同建替等により、個性豊かで魅力のある街並みを実現	
まちづくりの規制誘導	まちづくり条例（仮称）	・中野駅周辺まちづくりを推進するため、基本理念や、行政と民間の役割や責務、まちづくりの方向性や進めかた等を示す	
	まちづくりガイドライン	・総合的なプランとして、まちづくりの方針やまちの将来像、将来の土地利用や都市基盤整備の方針、開発者負担のあり方や推進方策等を示す ・自発的、協調的なまちづくりを喚起するため、開発者、地権者、区民等の関係者にまちづくりの方向性を指針として示す	

1

新しい中野のブランドづくり

- まちの活力や区民の生活は、自然、歴史、人材、企業をはじめ様々な地域資源によって支えられています。中野区は、東京の発展とともに地勢的な優位性を生かしながらいわゆる住宅都市として発展してきました。産業構造においても商業とサービス業の比重が高く、身近な所で区民の暮らしを支えてきましたが、近年は移転や廃業などによる事業所の減少傾向が目立ちます。
- 少子高齢化の進行、人口減少に伴う税収の減少が近い将来到来します。地域の経営には、力強い産業活動による経済基盤の確立が急務となっています。
- 一方、中野の立地に着目した都市型産業の集積が見え始めています。交通至便に立地する警察大学校移転跡地を含む中野駅周辺のまちづくりは、次代を切り拓く、新しい中野をつくるため、区内外から新たな資源を獲得し、発信力を持ったまちのブランドを生み出していく最大のチャンスです。



地域経済活性化を牽引する個性的な産業拠点の創出と文化発信基地としてのポテンシャルを確立し、業務・商業、時間消費型余暇、観光などによる来訪者、滞在者などの交流人口をふやします。

2

重点プロジェクト

1. 人を集める施設の整備

J R中央線の拠点駅としての立地条件を生かし、広域集客力を高めるために特色・魅力ある商業施設の立地を誘導し、にぎわいの面から東京の中でも特色あるプレゼンス（存在感）を高めます。

2. 産学連携の推進

警察大学校移転跡地エリアに大学が開設する立地を生かし、工業系大学・福祉系大学と連携して、知的人材、企業投資家、学生を呼び込み、イノベーションを推進します。

3. ヒューマンサービス機能の拡大

東京警察病院が開設する立地を生かし、医療、保健衛生、福祉などの事業所、NPOなどと連携し、中野のヒューマンサービス機能を高めていきます。

4. 産業の誘導策

I Tやコンテンツなど、今後も成長が見込まれる業種・業態の事業所を積極的に誘導し、区内産業を活性化させます。

5. にぎわいの「タネ」を育てる

観光・演劇など、にぎわいのもととなるカルチャーを活かし、地域文化の発見、創出を産業の活性化につなげます。

2-1

人を集める施設の整備

にぎわいの中心をつくります

区役所跡地の利用、中野サンプラザの再整備をおこないます。

近接の商店街との連続性、一体性を確保します。

① 集客力を高める

現在の区役所、中野サンプラザのある場所を、区外からの集客の中心として整備します。劇場、イベントホール、ホテル、テーマ型商業施設など集客力の高い施設の導入をめざします。また、自由な空間を創出し、若者が集い、表現活動や都市文化の楽しさを実感できるまちづくりの装置を整備します。

② 快適で楽しめるために

サンモール、ブロードウェイ、南口等、ハブ機能を維持し、快適にショッピングや飲食を楽しむ生活提案型の商店の集積など、各商店街が個性を発揮しつつも一体となり、新たな来街者を呼び込み、相乗効果の高い発展するまちづくりを推進します。

③ まちづくり整備と一体となって

整備にあたっては、JR中野駅や既存商店街などとの連携や、新たな回遊ルートの創設、歩行者の快適性や駐車場を含めた交通環境、荷さばき場などの商業環境の整備などをトータルにおこないます。

2-2

産学連携の推進

駅のそばに「知」を集積します

① 大学の誘導

中野の立地環境との親和性が高く、市場拡大が見込まれるソフトなものづくりやヒューマンサービスなどの都市型産業と産学連携が促進できるよう、メディア・コンテンツや福祉を専門とする大学を警大跡地へ積極的に誘導します。

② 産業の誘導

リーディング企業やインターネット大学を創設するなど産業の核となる企業に対する支援制度や知的財産を保護・活用できる制度を創設し、IT関連企業や福祉関連企業などの警大跡地の業務エリアへの進出を促します。

③ 産業と大学の連携支援

- (1) 大学と企業等社会との連携・協力窓口となる共同研究センターを大学内に設置することをめざします。
- (2) インキュベーションマネージャー派遣など、ソフト面での支援を行い、大学敷地内へのインキュベーション施設整備をめざします。
- (3) TLO（技術移転機関）が産と学の「仲介役」の役割を果たし、大学の研究者の研究成果を特許化し、それを民間企業等に技術移転をおこないます。
- (4) キャリア形成教育機関・情報関連教育機関とタイアップした人材確保・育成支援を進めます。

2-3

ヒューマンサービス機能の拡大

医療・福祉機関との連携を進めます

① 地域産業のモデルづくり

病院、大学、企業それぞれが持つ資源を活かして地域産業集積の新しいモデルをつくり、地域において少子高齢社会を支えるヒューマンサービス機能の拡大を図ります。

② 産・学・民の連携の促進

介護支援専門員や、訪問介護員、医師や看護職員など、少子高齢社会を支える人材の育成と確保及び福祉サービスの開発や協働事業を産・学・民の連携により行います。

③ 安全・安心の視点

高度医療対応病院として、また、東京都災害拠点病院としての警察病院の機能など特長のある病院事業活動を生かした、地域の安心・安全に関わる取り組みを支援します。

2-4

産業の誘導策

事業所立地を促進します

① 立地メリットを最大限活用

大学や研究機関、製造業の生産拠が多く立地する多摩地域と一大商業集積地の新宿を結ぶ中央線の軸上にあり、多様な事業活動を行ううえで、大きな立地メリットがあります。

② IT・コンテンツ産業等の誘導

インターネットによるネットワークは新しい社会基盤であり、今後も、情報サービスやコンテンツ作成などの需要が見込まれます。プロデューサーの育成や撮影・制作スタジオを確保してコンテンツ産業やIT関連産業を積極的に誘致すると共に、中小企業のIT活用を支援する仕組みづくりをめざします。

③ シティセールスによる誘導

人口の密集による市場性、交通利便性やコストパフォーマンスの高さなどのポテンシャルを活かし立地優位性や区民が推進するまちづくりの取り組みを広くセールスしていきます。

④ 新たな産業集積の促進

良質なオフィスの提供を支援するとともに、中野の立地環境にあったSOHO形態の事業所や起業しやすい産業環境を整備していきます。

地域資源を磨き、育み、発信します

① 「笑都・劇都」なかの

区内に演劇関係の事務所や稽古場やお笑い芸人の居住が多いという資源を活かして、文化芸術による中野の魅力、イメージアップをめざし、区外からの集客力を高め、地元商業などの産業の活性化につなげます。

② 活動拠点の整備

若手アーティスト等が創作活動や稽古等で利用する場として、コミュニティ・アートセンターの整備や自由なパフォーマンス空間を確保し、中野の地域文化を維持・発展させる場とします。

③ 観光情報の収集・発信

区内にあるイベントや名産品・名店などの観光資源をガイドブック、マップなどにまとめ、広く発信していきます。



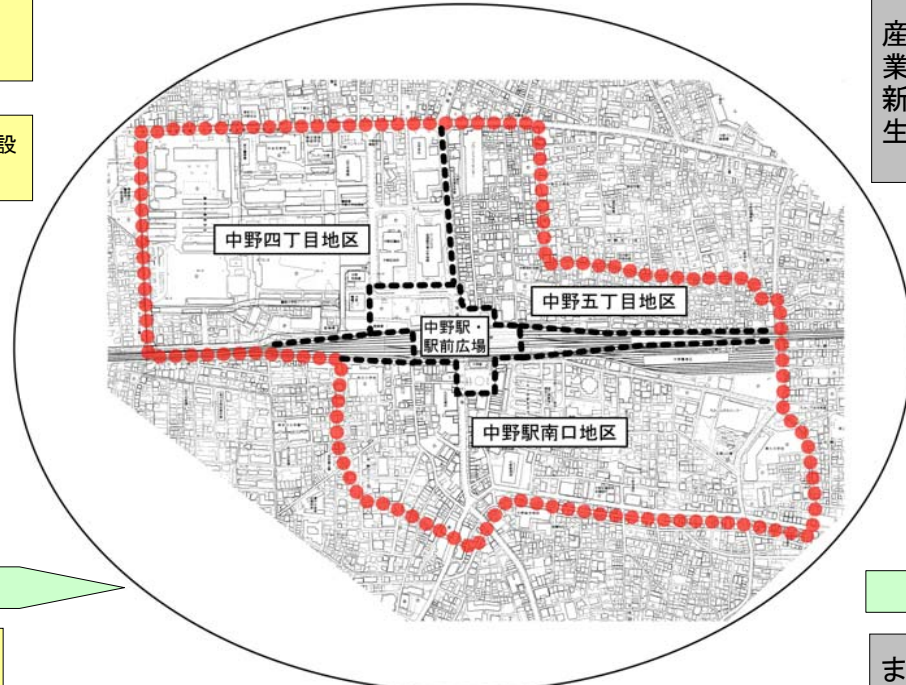
中野駅周辺のまちづくりは、概ね以下のようなスケジュールを想定しています。

【中野四丁目地区】

	～2年	～5年	～10年	～20年
まちづくり	警大跡地の地区計画・地区整備計画を決定	警大跡地では順次事業開始	跡地のまちづくりがほぼ完了	まちづくり完了
	困町などで、地域と行政とでまちづくりの検討	困町などで、まちづくり計画作成	困町などでも順次事業化	まちづくり完了
産業新生			区役所・サンプラザ等の再整備計画	まちづくり完了
	シティセールスによる誘導※	事業所立地の促進	産学連携の推進	集客力の高い施設の誘導
			ヒューマンサービス機能の拡大	
			事業所の誘導	

【中野五丁目地区】

	～5年	～10年	～20年
まちづくり	地域と行政とでまちづくりの検討	段階的に事業に着手	まちづくりがほぼ完了
産業新生	商店街を中心としたエリアマネジメントの検討	新たな回遊ルートの創設	
	シティセールスによる誘導※		



【中野駅南口地区】

	～5年	～10年	～20年
まちづくり	市街地整備に着手	先行する市街地整備が完了	まちづくりがほぼ完了
産業新生	地域と行政とでまちづくりの検討	段階的に事業を着手	
	商店街を中心としたエリアマネジメントの検討	事業所立地の促進	
	シティセールスによる誘導※	新たな回遊ルートの創設	

【中野駅及び駅前広場】

	～5年	～10年	～20年
まちづくり	東京都、鉄道事業者等と協議、計画策定	計画に基づき事業の実施中	事業がほぼ完了
産業新生	バリアフリー対策		新たな回遊ルートの創設
			にぎわいの中心機能

※「シティセールスによる誘導」については継続的に行います。

中野駅周辺まちづくりランドデザイン Ver. 1.0

発行：平成18(2006)年12月

発行者：中野区拠点まちづくり推進室拠点まちづくり分野
〒164-8501

東京都中野区中野4丁目8番1号

TEL 03-3228-8980

FAX 03-3228-5670

Email kyotenmatidukuri@city.tokyo-nakano.lg.jp

18中拠拠第624号